

第4回刈谷市スマートシティ推進協議会 議事録

- 日時：2023年4月21日（金）9時30分～11時00分
- 場所：刈谷市役所 7階大会議室及び ZOOM
- 参加者：別紙のとおり
- 議事：

開会

- 挨拶（企画財政部長）
 - ・ 定刻となったため、第4回刈谷市スマートシティ推進協議会を開会する。
 - ・ これまで、協議会の開催回数を年度ごとで第1回から第3回まで実施予定と説明していたが、今後は、年度ごとではなく、開催回数を通して表現することとしたい。
 - ・ 以後は次第に沿って進める。まず、開会にあたって、刈谷市スマートシティ推進協議会の会長である市長の稲垣よりあいさつ申し上げる。

- 挨拶（市長）
 - ・ 本日は、年度初めの大変お忙しい中、ご参加いただき感謝申し上げます。
 - ・ 本日は令和5年度最初の推進協議会ということで、今年度の活動計画と、今年度から新たに実施する「課題解決型実証事業」において、実証プロジェクトを募集する課題について、市の担当職員がプレゼンテーションを行う。いずれも本市が抱える喫緊の課題であり、本日のプレゼンテーションを通して理解を深めていただき、解決策について皆様のお知恵を拝借したい。
 - ・ 今年度はコロナ禍を明けて新たなスタートの年だと認識している。今後、行政としても色々な協議会や総会へ参加していくこととなる。地域産業に目を向けると、やはりコロナ禍の影響で3年くらい活動が停滞していた面が感じられる。この間、地域は役員が変わり地域活動が継承されていない側面もあるだろう。
 - ・ 今後、社会経済活動の活性化に向けて、行政として強力に支援していきたい。例えば、創業者への支援として、店舗を出す前の補助など、市内に限らず市外からも受け入れていく創業者支援を展開していく。
 - ・ また、人口減少の課題については国内だけでなく本市も同様であり注視している。コロナ禍の市の人口は1,000人程度の減少傾向にあったが、直近は少しずつ回復傾向にある。ただしスピードは遅い印象。外国人の人口も減っており注視していかなくてはならない。市の関連産業が回復していけば雇用が拡大して人口も戻ると考えている。
 - ・ 特に、コロナ禍の影響、テレワーク推進の影響で昼間に刈谷市に訪れる方が減っているのは事実である。定住人口の支援だけでなく、昼間の賑わい創出の観点で、昼間に市に訪れる方を増やすことは、経済活動活性化に向けて求められる。
 - ・ 本日説明する課題の中に、「刈谷ハイウェイオアシス駐車場のスムーズな利用」がある。刈谷ハイウェイオアシスは、全国のテーマパークの中でも、ディズニーランド、USJ に続く全国3位の集客施設である。その

ため、駐車場の整備を積極的に進めているが、中心エリアから遠い駐車場の活用がなかなか進まず、（ドライバーにとって）駐車場の満・空状態が視覚的に把握できない課題がある。

- ・ 地方の商業施設に目を向けると、駐車場の入り口で満車・空車をランプ表示でドライバーへ伝えることもされている。是非ともこの課題をスマートシティの取組の中で新しい仕組みを構築して解決したい。
- ・ 民間の皆さまのお知恵をいただきながら、市のスマートシティ実現に向けて、実証を進めるとともに将来的な実装へつなげていきたい。

議題 1. 令和 5 年度活動計画について

- 資料 1 「刈谷市スマートシティ推進協議会令和 5 年度活動計画」について（企画調整監）
 - ・ 本日使用する資料は、ご登録されたメールアドレスあてに、事前にお送りした。紙資料は配付しないのでご了承ください。
- 刈谷市スマートシティ推進協議会開催予定（企画調整監）
 - ・ 本日第 4 回は、(1)令和 5 年度活動計画について、(2) 課題解決型実証プロジェクトの募集課題についての 2 件の議題を説明する。(2)は、担当課からプレゼンテーションを実施する。
 - ・ 第 5 回は、6 月下旬に書面開催の予定で、課題解決型実証プロジェクトの募集結果について、メールにてご報告を予定する。
 - ・ 第 6 回は、翌令和 6 年の 3 月 26 日に開催予定で、令和 5 年度の活動報告と令和 6 年度に実施する課題解決型実証プロジェクトの募集を説明する。
- 課題解決型実証事業実施スケジュール（企画調整監）
 - ・ 募集は既に 4 月 5 日から HP 上で開始している。企画提案書の提出締切は 5 月 12 日までとする。
 - ・ 一次審査、二次審査を経て、正式採択は 7 月の中旬、実際に実証プロジェクトが開始できるのは 7 月下旬以降と認識いただきたい。
 - ・ 3 月上旬には完了報告の書類を提出いただくため、実証プロジェクトが実施できるのは 2 月中までとなる。
- 国 SC 関連事業・県モデル事業応募案件・その他（企画調整監）
 - ・ 課題解決型実証プロジェクト以外で、実証プロジェクトの実施を検討している 3 案件をまとめた。
 - 1 件目、経済産業省の「地域新 MaaS 創出推進事業」に、子どもの学び・体験をサポートする放課後子育て MaaS のプロジェクトを応募する予定である。
 - 2 件目の刈谷スマートウェルネスプロジェクト～第 2 弾は、今年度に引き続き、愛知県のスマートシティモデル事業の採択を目指して、健康づくりの分野での実証について、NTT コミュニケーションズ様を中心に検討を進めている旨を 3 月の推進協議会で報告した。検討メンバーに、昨年度のモデル事業にもご協力のジェイテクト様を加え、歩行状態を可視化するアプリをさらに発展させ、健康に無関心な層へ健康増進を図る仕組みを検討していく。
 - 3 件目の「J クレジット制度を活用した市内循環モデルの構築」は、3 月の推進協議会でご説明したときには、3 月から 4 月に J クレジットの申請を行っていきと伝えていたが、予定が遅れ、8 月頃の申請を目指して準備を進めている。既にこの 4 月から「かりやカーボンニュートラルバンク」を立ち上げ済、J クレジットの申請手続きが完了する以前に入会された場合でも、遡って適用可能である。

議題 1.に関する質疑応答

- 議題 1 の質疑応答について（企画財政部長）
 - ・ 特に質疑がないため、次の議題へ移る。（企画財政部長）

議題 2. 課題解決型実証プロジェクトの募集課題について

- 資料 2 「課題解決型実証プロジェクトの募集課題について」（企画調整監）
 - ・ 「課題解決型実証事業」とは、本市の解決したい課題を提示し、その解決につながる実証プロジェクトの募集を行う仕組みで、スマートシティ構想の推進体制の中心として位置付けている。
 - ・ 今年度の募集課題は 5 件で、1 プロジェクトあたり上限 3 0 0 万円の実証の費用を市が負担する。なお、契約は委託契約とし、実証事業終了後に本市から実施企業等に委託料を支払う。
 - ・ 実証プロジェクトの実施にあたりコンソーシアムの組成は任意で、1 社で提案・実施いただいても構わない。
- 各課からのプレゼンテーションについて（企画政策課）
 - ・ 実証プロジェクトを募集する課題について、担当課からプレゼンテーションを行う。プレゼン 5 分と質疑応答 5 分の 10 分間で進行させていただく。
 - ・ この場でいただいた質問はこの場で回答する。また、Zoom のチャット機能やメール等で受領した質問は、時間の都合上この場で回答しないが、他の質問回答と合わせて 4/26 に市の HP に掲載させていただく。
- プレゼンテーション「災害時の避難所受付のスマート化」（危機管理課）
 - ・ 自然災害が激甚化する背景の中、市では 37 か所の避難所が指定されている。避難所にはパソコンが配備されておらず、受付では紙で手書きしており、運営者はそれを集計して災害対策本部へ FAX するアナログかつ労力がかかる対応となっている。
 - ・ アナログなプロセスによって、2 つの課題（受付業務の混乱、避難所運営の遅れ）が生じている。
 - ・ 地区ごとに開催している訓練では、LINE などを使った情報連絡を訓練する地区もある。訓練参加者からは、限られた人員で運営する不安や、受付の混雑・待機に対する懸念の声が挙がっている。
 - ・ 目指す姿は、避難所の開設、運営、閉鎖までをデジタルを活用してスムーズにできる仕組み構築である。スマホ、マイナンバーカード、QR コード等を含めどのような手法が望ましいのか、デジタル弱者へはどのように支援したらよいか、実証事業を通して考えたい。
 - ・ 今年度は、災害時に限り、避難所にパソコンが配備できないかを市において検討を進めている。
- 「災害時の避難所受付のスマート化」への質疑応答
 - ・ 実証事業としては様々な手法がある。例えば、市の職員だけを集めて施設運営者役、避難者役に分けて訓練を行う中で、アナログとデジタルでどうだったのか検証することも考えられる。また、市民に訓練に参加いただく中で、デジタルツールが使えるか、負担が増えないかを検証することもできるだろう。（危機管理課）
 - ・ 今回の実証にあたってマイナンバーカードや QR コードを使うなど、制約事項があれば教えてほしい（NTT 西日本）
 - 特に制約事項はない。なお、複数回実証を重ねるよりは、特定の日程で 1 度実証が出来ればと思う。（危機管理課）
- プレゼンテーション「利用しやすい病児・病後児保育の実現」（子育て支援課）

- ・ 病児・病後児保育とは、仕事などの理由により家庭でお子様の面倒が見られない場合に、お子様をお預かりするサービス。市内には3か所の施設があり年間300～350人のお子様を利用中。
- ・ 手続きは、①事前登録②医療機関の受診③施設の利用予約をする④必要書類の準備・打ち合わせをする⑤保育、の順であり、全て紙面や電話を中心に行われている。
- ・ 問題点は、スタッフ目線では保育と受付業務を同時に行うことが難しいこと。利用者目線では子どもの面倒を見ながら、手続きをする負担が大きいことである。
- ・ まず、病児・病後児保育の予約状況の確認や予約をシステムで行えるようにしたい。
- ・ 将来的には、子どもと保護者をリアルタイムでつなぐオンラインサービスを実現したい。離れた医療機関から指示を仰ぐほか、オンラインで事前打ち合わせすることができれば、スタッフ・保護者共に利用しやすく安全・安心なサービスを実現できると考えている。
- 「利用しやすい病児・病後児保育の実現」への質疑応答
 - ・ 各施設にインターネット回線があるのか、既存パソコンが使えるのか知りたい。また、WEBでアプリケーションをご提供して使用いただく場合、セキュリティの基準やガイドラインがあれば教えていただきたい。（NTT西日本）
 - 3施設のうち、市が直営する1施設はネット環境やパソコン端末が整備されていない。セキュリティの基準・ガイドラインは担当部署に確認するが、ルールを順守いただくことになる。（子育て支援課）
 - ・ （病児・病後児保育は）急に使うこととなるサービスであるため、現在の電話中心の対応では利用者へご不便をおかけしている点もあると考える。解決する提案をお待ちしている。（子育て支援課）
- プレゼンテーション「バス利用者の移動需要（乗降情報等）の把握」（都市交通課）
 - ・ 年間56万人が利用する刈谷市のバス「かりまる」の需要把握はアナログな方法で行っている。具体的には、乗車人数は運転手が手書きで記録し、事業所に戻ってからエクセルに記入をしている。
 - ・ 課題は3つある。①運転手の負担が大きい②利用者がどこで乗り降りしているかが把握できていない③利用者の属性が把握できていない、ことである。
 - ・ 解決策のイメージとしては、AIカメラの顔認証システムでのOD調査ができれば、効率的なODデータの収集につながり、今後、移動ニーズに即したバス路線の再編の検討や効果検証等に役立てることができると考えている。
- 「バス利用者の移動需要（乗降情報等）の把握」質疑応答について
 - ・ 他市の富山市の事例を参考に、刈谷市でもAIカメラを導入して市の課題を解決していきたい。（都市交通課）
 - ・ バスで病院へ通う患者さんの立場に立つと、病院の待ち時間を少なくすることがニーズと考えられる。例えば、バスを降りる際に病院の利用受付が済むなど、降りた後に必要なサービスと連動していけばよいサービスになるのではないかと。（豊田会）
 - MaaSの取組にもつながるため、引き続きご助言をいただけるとありがたい。（都市交通課）
- プレゼンテーション「刈谷ハイウェイオアシス駐車場のスムーズな利用」（公園整備課）
 - ・ 刈谷ハイウェイオアシスは高速道からも一般道からもアクセスできて賑わう公園であり、コロナ禍前は900万人が来場している。
 - ・ 土日祝日は、駐車場に入庫する車の混雑が頻発している。公園に近い第1～3駐車場は混雑し、第4、第5駐車場は空いていたとしても誘導できていない。

- ・ 一部の駐車場は左折のみでしか入れない。また、スマート IC への誤侵入も発生している。このような中、現在は交通誘導員を路上に立たせて案内している。
- ・ 今後、AI カメラやカーナビ・アプリを連携させて、空いている駐車場への案内誘導をスムーズに出来る仕組みを試したい。
- ・ 将来的には刈谷ハイウェイオアシスの混雑予測も提供することで、快適な公園利用につなげたい。
- 「刈谷ハイウェイオアシス駐車場のスムーズな利用」質疑応答
 - ・ 将来的には刈谷ハイウェイオアシスの混雑も発信したいとのことだが、公園利用者の属性データは、どのような方法で取られているのかを教えてください。（NTT コミュニケーションズ）
 - 岩が池公園の構想を策定する際に公園利用の調査をしており、土日 2 日間で 600 くらいのサンプルから年齢、性別、滞在時間などを把握した。このアンケートデータを提供することが可能である。（公園整備課）
 - ・ 将来的には、ハイウェイオアシス側の駐車場の混雑も、ということだが、市は NEXCO と連携されるのか。（NTT 西日本）
 - 今回の実証プロジェクトは、一般道側の駐車場で行っていく予定である。（公園整備課）
 - 高速道路側においても提案があれば、今回の募集とは別となるが、ぜひご相談いただきたい。（企画政策課）
- プレゼンテーション「水道管漏水の早期発見と予防保全の実現」（水道課）
 - ・ 市の水道管路は 801km にも及び、漏水の発見には、多大な人手や財源がかかっている。事後保全がメインで早期発見や予防は困難な状況である。
 - ・ 法定耐用年数を超過する水道管は多く見込まれるため、早期発見と予防保全の実現を行いたい。
 - ・ 今後は、先進技術を用いて効率的に漏水調査をしたい。例えば、人口衛星技術や AI を活用し、現場に行かなくても漏水箇所を把握するとともに予防保全に役立てることが理想である。
 - ・ 今回は、市の調査範囲を絞って、先進技術の有効性を検証する実験を行っていききたい。他にも課題解決に合った内容があれば、提案をお聞きしていきたい。
- 「水道管漏水の早期発見と予防保全の実現」質疑応答について
 - ・ 中部電力パワーグリッド様、東邦ガス様、ライフラインの維持管理における先進技術活用の実例がありましたら教えていただきたい。（水道課）
 - 電力の維持管理と課題は似ている。ただし、漏電はシステムで感知しやすいが、水は感知できないから、解決は難しいと感じた。（中部電力パワーグリッド）
 - 都市ガスと比較すると、気体と液体の違いがあり、難しさを感じた。都市ガスの場合、付臭材を混入し、万が一、漏れた場合は、臭いで感知する。また導管は、予防保全的に、埋設年数が長いものを順次、入れ替えている。（東邦ガス）
 - 製造業の例だと、製造ラインにセンサーを設けて振動等で異常を把握している。地中の水道管となると難しさはある。他社と連携して何かできないかを検討する。（NTT コミュニケーションズ）
- 企画提案書の様式について（企画政策課）
 - ・ 企画提案書の様式は、市の HP で公開しており、自由にダウンロード可能。今回は協議会の参考資料として、会員の皆様には事前に送付している。
 - ・ 「01 企画提案の概要」は、課題名をご記入いただき、プロジェクト名を記載いただく。コンソーシアムによ

る提案も可能。代表団体である提案者の情報も記載いただきたい。

- ・ 「02 団体情報」について、単独での応募の場合は代表団体情報のみを、コンソーシアムを組成する場合は、構成団体情報を記載いただきたい。構成団体が3団体を超える場合、次スライドに新たに枠を設けて記入いただきたい。
- ・ 「03 課題解決の方法」は記入例を参考に、自由に記入いただきたい。レイアウトは参考である。2スライド以内としていただきたい。
- ・ 「04 検証項目及び将来展望」は2スライド以内で自由に記入いただきたい。
- ・ 「05 実施体制・役割分担」ですが、1スライドでまとめてください。記入例の要素があれば、体制図のレイアウトも自由に変更して構わない。
- ・ 「06 実施スケジュール」は、1スライドで、記入例の要素があれば、レイアウトも自由である。
- ・ 「07 事業費」ですが、1スライドで記入例の要素があれば、レイアウトも自由。金額は応募の時点では概算費用でも構わない。ただしあまりにも乖離があると実証プロジェクトが実施できない恐れもあるため、可能な限り、精査した数字をご記入ください。ここまでが、提出が必須の項目である。
- ・ 「08 過去の取組実績や付加提案」の提出は任意。参考となる実績や、魅力的なご提案があれば提出いただきたい。

議題 3. その他について

- 次回の予定について（企画財政部長）
 - ・ 次回、第5回の推進協議会は、6月下旬頃の開催を予定している。
 - ・ 議題としては、課題解決型実証プロジェクトの募集結果についてご報告させていただく予定。

閉会

- （企画財政部長）
 - ・ 以上をもって終了する。

以上